

三重県新エネルギービジョン中間評価(案)(数値目標に対する評価結果概要)

	進 捗 状 況				進捗の要因と今後の見込み	今後推進するために必要なこと
	H22(実績値) 上段:導入量 (原油換算) 下段:進捗率	H25(実績値) 上段:導入量 (原油換算) 下段:進捗率 <目標>	H32(目標値) 上段:導入量 (原油換算) <目標>	導入 状況		
太陽光 発電	65,667kW (17,253kL) 12.3%	340,693kW (89,514kL) 63.6% <38.6%>	536,000kW (140,829kL) <100%>	順調	固定価格買取制度による買取単価の優遇(平成24年7月から3年間)整備期間が比較的短いため、導入量は順調に推移。 (メガソーラー H25 約64,000kW、H26 約200,000kW) (平成26年度末導入量646,160kW、進捗率121%) 既に平成32年度の目標値(536,000kW)を達成。 県内の多くの地点でメガソーラーの整備・計画が進行中。 (津市 51,000kW、四日市市 21,000kW 他)	メガソーラーの増加に伴う、系統連系対策の強化や 接続可能量の更なる拡大等。 ○家庭向けへの導入促進に向けた普及啓発。
太陽熱 利用		(1,572kL) 7.9% <27.7%>	(20,000kL) <100%>	伸び 悩み	【太陽熱温水器、ソーラーシステム】 設置場所が競合する太陽光発電の導入、及び用途が競合する家庭用ヒートポンプ式給湯器(エコキュート)の導入が順調に推移し、太陽熱利用の進捗は伸び悩み。	給湯を多く必要とする施設への導入促進に向けた普及啓発。
風力 発電	72,054kW (33,121kL) 29.4%	72,655kW (33,398kL) 29.7% <50.6%>	245,000kW (112,620kL) <100%>	伸び 悩み	現在、県内では風力発電の新設・増設工事が進められているが、計画から運転開始まで10年弱の期間を要するため、進捗は伸び悩み。 (平成32年度末導入量192,655kW、進捗率は78.6%の見込み)	新設に際しては、自然環境や住環境との調和を図り、住民の理解を得ることが必要。
バイオマス 発電	45,310kW (56,638kL) 59.6%	48,090kW (60,113kL) 63.3% <71.7%>	76,000kW (95,000kL) <100%>	今後も 順調に 推移	【木質バイオマス発電と廃棄物発電(ごみ処理施設)】 市町等の高効率ごみ発電施設の整備による廃棄物系バイオマスのエネルギー利用促進。 複数の木質バイオマス発電やごみ焼却発電施設の整備が進行中。 (平成32年度末導入量約100,000kW、進捗率は約131%の見込み)	木質系バイオマス 燃料となる木質チップ等の安定供給が課題。 廃棄物系バイオマス 導入量は次期「三重県廃棄物処理計画(平成28~32年度)」を踏まえ検討。
バイオマス 熱利用	(32,065kL) 49.3%	(52,654kL) 81.0% <63.5%>	(65,000kL) <100%>	順調	【木質バイオマス熱利用(製材所等)と廃棄物熱利用(ごみ処理施設)】 主に施設内での排熱・温水利用など自家消費を目的に利用され、導入量は順調に推移。	燃料の安定供給が課題。

	進 捗 状 況				進捗の要因と今後の見込み	今後推進するために必要なこと
	H22(実績値) 上段:導入量 (原油換算)	H25(実績値) 上段:導入量 (原油換算)	H32(目標値) 上段:導入量 (原油換算)	導入 状況		
	下段:進捗率	下段:進捗率 <目標>	<目標>			
中小規模 水力発電		549kW (490kL)	4,000kW (3,569kL)	伸び 悩み	【農水用水路や上下水道施設等を活用した1,000kW未満の水力発電】 県内の農業用水等を活用した小水力発電では、発電規模が小さい地点が多く、導入コストが割高となるため、進捗は伸び悩み。 平成27年度末には、約340kWが稼働予定。 (津市内338kW、多気町内約2kW)	導入コストの低廉化。 今後の導入量は、「農業水利施設を活用した小水力発電マスタープラン」(合計29箇所、発電規模1,057kW)を踏まえ検討。 電力会社の1,000kW未満の中小規模水力発電(5,360kW)の取扱いについて検討。
		13.7% <31.5%>	<100%>			
コージェネ レーション (熱電併 給)	437,317kW (231,587kL)	446,206kW (236,289kL)	511,000kW (270,276kL)	伸び 悩み	【病院・飲食施設などで使用されるガスエンジン、ディーゼルエンジン等と一般家庭向けの燃料電池(エネファーム)】 導入コストが高額であることからコージェネレーション設備の導入は伸び悩み。	企業への導入促進に向けた普及啓発。 コージェネレーション設備の低廉化。 ○国の財政支援等の活用。
うち 燃料 電池	1,162kW (606kL)	1,786kW (931kL)	42,000kW (21,900kL)			
	85.7%	87.3% <97.7%>	<100%>	2.8% <31.9%>	<100%>	
クリーンエ ネルギー自 動車	25,170台 (9,187kL)	72,232台 (26,365kL)	282,000台 (102,930kL)	伸び 悩み	【ハイブリッド自動車、電気自動車、天然ガス自動車など】 県民の省エネ意識の高まりから、平成22年度末時点から3年間で約2.9倍の増加(約9割がハイブリッド自動車)だが、進捗は伸び悩み。	「次世代自動車」との整合(クリーンディーゼル車、燃料電池自動車の追加)、 電気自動車充電施設の整備促進。
	8.9%	25.6% <38.9%>	<100%>			
ヒートポン プ		89,900台 (34,162kL)	122,000台 (46,360kL)	順調	【空気熱を利用する家庭用ヒートポンプ式給湯器(エコキュート)】 家庭のオール電化により、エコキュートの導入は順調に推移。 (平成26年度末導入量約98,000台、進捗率は80%の見込み)	地中熱ヒートポンプについては導入コストの低廉化 (県内平成25年度累計5件)。
		73.7% <68.1%>	<100%>			
従来型一次 エネルギーの 削減量合計 (上段1行目: 原油換算) (上段2行目: 世帯数換算)	(379,851kL) 204,486世帯	(534,557kL) 287,766世帯	(856,000kL) 461,000世帯	順調	発電については、固定価格買取制度の導入(平成24年7月)により順調に推移。	
	44.4%	62.4% <61.0%>	<100%>			